

東北大学工学部だより

あおば vol.16 2012 Spring

萌ゆ

「あおば萌ゆ」の名は、東北大学学生歌タイトル「青葉もゆる、このみちのく」から。生き生きとみずみずしく萌え出ずる青葉のように、フレッシュな広報誌でありたいという想いを込めています。

あいさつ

この春、工学研究科長・工学部長を拝命いたしました金井です。この紙面をお借りして皆さまにご挨拶申し上げます。

未曾有の震災から一年、本誌の昨年春号にて報告がありましたが、青葉山キャンパスは少なからぬ物的被害を受けました。保護者の方々には憂慮の念を抱かれたことと存じます。

震災直後は、自助・共助によって従前の勉学・研究環境を取り戻すべく奔走いたしました。その後は国からの支援の下、仮設研究棟や実験設備・機器が整備されました。大きな被害のあった3学科の研究棟・講義棟も平成26年春までには新築される予定です。

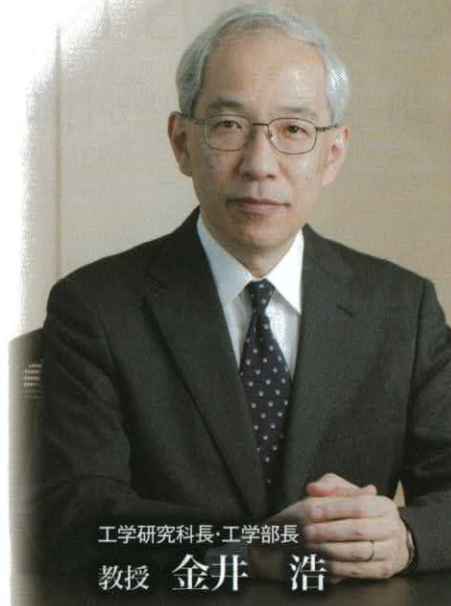
この間、学内は大きな混乱もなく、平時同様の運営がなされました。学生の皆さんの冷静沈着な行動には特筆すべきものがありました。また教職員は、震災体験によって得られた教訓・経験知を、広く社会に開き、発

信していかなければという強い意欲と使命を抱いております。今後、被災した教育機関たる本学が果たすべき役割は、いよいよ大きな社会的責務を帯びてくるものと思われまます。

東北大学は、開学以来、研究第一主義、実学尊重、門戸開放を理念とし、近代日本の隆盛と持続的発展を牽引し、世界に先んじ科学技術の地平を拓いてきました。しかし近年、研究者や専門家が対峙すべき課題は大きく様変わりしました。例えば「地球環境問題」「化石資源の枯渇」「グローバル化」「少子高齢化」「ものづくり経済の衰退」など、解決を求められている大きな課題が山積しています。

そもそも工学とは、物質的な豊かさの探究に加え、安全安心、健康・福祉、そして「真の豊かさ」の創造を目的とする学問です。本学部・研究科は、長い歴史の中で培った英知と技術を礎に、時代や社会の要請にいち早く応えていかなければならないという思

いを一層強くしております。人類が抱える大きな問題と向き合うことができるのは、大学における研究の特色であり、責務のひとつでありましょう。大学でいかに学び、世界や社会と関わっていくのか、学生の皆さんとともに新たな気持ちで探求してまいります。



工学研究科長・工学部長

教授 金井 浩

ブックカフェと購買店舗、トラベルカウンターが展開されているセンタースクエア内の“BOOK(ブーク)”